



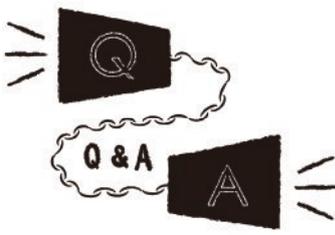
# 田中育子 13

Ikuko Tanaka

## INTERVIEW

### やらない後悔より、やった後悔！ 自分の可能性を広げることが大切

現在、女性活躍推進担当として活動しています。取組みとしては、女性職員のキャリア形成醸成のための女性経営者との交流会のほか、男女共同参画やジェンダーフリーに関する講座の受講など。受講するだけでなく、その後ディスカッションなどを通して、男女や階層の温度差等の課題を解決するため次の活動に繋げています。またワーク・ライフ・バランスに関する職員の意識向上のため講演会受講や家族の職場参観なども実施。これらの積み重ねにより社内のみならず社会全体の意識が変わり、女性をもっと活躍しやすい環境に繋がると思っています。この専任者に任命されたとき戸惑いましたが、実際にやってみると視野が広がり、いい機会を与えてもらったと思っています。人生には予想もしないことが多々ありますが、最初からできないと諦めるのではなく、まずは挑戦してみることに。それによって可能性が広がりますよ！



### PROFILE

1968年、深川市生まれ。短大進学により札幌市へ。父の実家が農業をしていたこともあって一次産業への貢献をめざして株式会社日本政策金融公庫札幌支店に入社。一男一女の母でもある。

#### 現在の仕事(活動)について

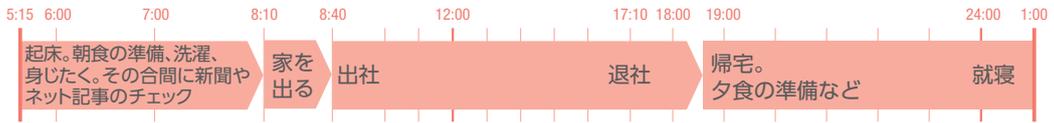
北海道内の各支店における女性活躍推進・職場環境向上推進活動の専任者をしています。具体的には、各支店の活動の提案から企画・資料作成のサポートや活動への参加、各支店所在地の自治体等との連携の橋渡しなどになります。

#### プライベートの過ごし方

基本的に料理は好きなので、週末など時間に追われずに“美味しい料理”ができるとストレス発散になります。インテリア・雑貨店のウィンドーショッピングやインテリア本の読書は、時間があつという間に過ぎると感じるぐらい大好きです。



### タイムスケジュール



子どもは13才と9才でだいぶ手がかからないようになったとか。夫が調理師ということもあって食事の用意は分担しているという

①



①長男出産時。このとき育休は1年取得  
②長女の保育所にて。このとき育休は7ヶ月まで取得。いまは9才になる

②



## 社内で女性活躍推進と職場環境向上の活動中

### 「やりがい」だと感じられること

各支店の活動成果を実感できたとき。活動に参加した職員の感想を聞き、会社の女性活躍推進や職場環境向上に微力ながら貢献できたのかなと思えたときは、うれしいです。また他支店や他事業の交流も増え、わたし自身いい刺激ももらっています。

### 忘れられないエピソード

入社して3年目、融資審査を担当し、定期的に道内各地へ出張していました。まだ行政機関でも女性担当者は少なく、夜の懇親会でコンパニオン扱いされることが多かったです。当時はセクハラといった言葉もなく、精神的に苦労したことが多々ありました。

### 仕事と家事の両立で工夫していること

子どもに働く大切さを伝え、最近は家事の手伝いや労いをしてくれるようになりました。手間を省くと後ろめたさを感じるので、家族とのコミュニケーションを大切に、精神的な負担感を軽くすることが自分なりの秘訣。でもやっぱり大いに手抜きします(笑)。

### 女性が活動する上で不足していること

活躍したい女性周囲の環境整備。企業のトップメッセージはあっても、社内全体に意識が浸透しているかという点、まだまだかなあと。また、育児休業など制度はあっても、取得しづらい職場環境であれば意味がないので、職場風土の醸成に繋がる具体的な取組みが必要。

### 札幌を拠点に活動することについて

北海道における女性の活躍推進はまだこれからだと思います。まずは北海道の拠点である札幌で、あらゆる立場や環境の女性が活躍して、そこから徐々に道内の各地域へも広がって、地域活性化に繋がればいいなと思っています。

### 社会で女性が活躍することについて

女性ならではの利点、たとえばきめ細やかなサービスや発想、しなやかな言動などをいかすことで、より充実した社会に繋がるのではないのでしょうか。“女性(自分)らしさ”をいかして活躍する人がもっと増えることで、いい影響を与えてくれたらうれしいです。

### 今後の目標・展望など

現職では同様に社内で女性活躍や職場環境向上に取組む企業との連携等外部機関とのネットワークを構築し、職員のキャリア形成や多様な価値観の醸成への寄与、会社自体が地域へ貢献できる基盤をつくること。その中で自分らしく、いち社会人として成長していきたい。

### 活動を望む女性へのメッセージ

ライフイベント(結婚や妊娠・出産等)は、最初から無理と決めつけて選択肢を狭めず、まずはやってみることが可能性を広げることになります。やってみたら新たな自分を発見できるかもしれません。あまり肩肘はらず、ありのままの自分に自信を持ってください!